

花粉症対策の強い味方です

花粉の測定は、従来、1日1回花粉を採取し、顕微鏡を用いて花粉の数を数える方法で行われてきました。しかし近年、花粉自動計測器が開発され、花粉の飛散状況がリアルタイムで把握できるようになりました。この自動計測器は、レーザー光を花粉に照射したときの散乱を利用して花粉の数を計測するものです。

環境省では、平成14年度から順次、この花粉自動計測器を設置してきました。平成19年度中には、北海道・東北地域での設置を進めることとしており、これにより、全国の花粉状況を計測できることになります。

こうした花粉飛散情報は、インターネットで見ることができます。環境省では、花粉自動計測器による計測結果を自動的に収集し表示する「環境省花粉観測システム（愛称：はなこさん）」を整備しており、アメダス観測地点の気象データと組み合わせて、1時間ごとに、最新の花粉飛散量、飛散方向などを花粉飛散シーズンにホームページ上で公表しています。

また、今シーズンからは携帯電話でもホームページが見られるようになります。

「環境省花粉観測システム（愛称：はなこさん）」
ホームページ <http://kafun.taiki.go.jp>
携帯電話 <http://kafun.taiki.go.jp/mobile>



環境立国に向けて

平成20年度は、京都議定書の第一約束期間（2008年～2012年）が始まるなど、人類にとって大きな節目の年です。こうした時期に日本は北海道洞爺湖サミットの議長国となり、人類の新しい歴史を先頭に立って切り開いていく役割を担うことになりました。

このため環境省では、「21世紀環境立国戦略」に基づき、「低炭素社会」、「自然共生社会」および「循環型社会」の構築に向けた総合的な取り組みを来年度はさらに強力に展開していきます。また、日本の環境技術、公害克服の経験とノウハウを活かした「環境立国」を日本モデルとして創造し、アジアを中心に世界各国へと発信していきます。

地球温暖化問題については、京都議定書6%削減約束を確実に達成するため、業務・家庭部門をはじめ、あらゆる部門で温暖化対策を加速します。生物多様性の保全および持続可能な利用に関しては、「第三次生物多様性国家戦略」に基づき、多面的な対策を展開していきます。3Rを通じた循環型社会の構築に向けては、「循環型社会形成推進基本計画」の見直しを踏まえ、適正な資源循環の確保を図っていきます。

地域発の、あのエコ、このエコ、大集合！

雪で電気のいらない冷蔵庫？ 余った油で車を走らせる？ 定期預金でCO₂削減？ 地域ならではの優れた取り組みにスポットを当て、温暖化防止をテーマに「街」を元気にさせ、温暖化防止を地方発で広める、そんな事業が今年度から全国で展開されています。

その名も、ストップ温暖化「一村一品」大作戦。3カ年のこの事業は、全国にある地球温暖化防止活動推進センターなどが中心となって事業が展開されています。2007年は6月から応募を開始し、夏ごろから全国で県予選が行われ、12月には各県の代表が決定しました。太陽光や温泉、雪などの自然の恵みをエネルギーとして活用するものから、学校や家庭などで取り組む省エネ活動まで、全国でさまざまな取り組みが選ばれています。

全国大会は2月9日（土）、10日（日）に東京丸ビルホールで開催されます。全国1,070の頂点に立つ企画はどれか。古美術鑑定家の中島誠之助委員長を始めとした審査委員がグランプリを選出します。詳しくは地球温暖化防止活動推進センターのホームページ（<http://www.jccca.org>）まで。



エコ活動、はじめよう！

「こどもエコクラブ」とは、次世代を担う子どもたちがそれぞれの地域の中で、自主的に環境保全活動や環境学習を行うことをサポートする事業です。1995年に当時の環境庁が主体となってスタートし、市区町村の環境担当課がコーディネーターとしての役割を担ってきました。

こどもエコクラブは、幼児から高校生までの2人以上のメンバーと活動を支えるサポーター（大人）で構成されます。主な活動は、生き物調査や町のエコチェック、リサイクル活動など、クラブが自主的に行う「エコロジカルあくしょん」と、出題された共通テーマについて調査する「エコロジカルとれーにんぐ」の2つ。どちらかでも、両方取り組んでもOKです。平成18年度には全国で4,819クラブ、137,532人の参加がありました。

毎年、1年間の活動を締めくくる「こどもエコクラブ全国フェスティバル」が開催されてきました。今年も3月29日（土）、30日（日）に、「つなげよう過去と未来、つなげよう地域と地球」をコンセプトに福岡県北九州市で開催されます。それぞれのクラブの活動を紹介した壁新聞の展示や交流会、エコツアーなどが行われる予定です。